

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	平成29年度第1回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成29年4月19日（水）午後6時～8時45分
開 催 場 所	ボランティア・市民活動センター会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：（委員）渡辺龍也、北口良夫、瀬口圭志、高橋誠、清野智美 比留間多一、本間由美子、高尾典之、比留間毅浩 欠席者：前田啓子 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告会の注意事項について
報 告 会	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会
事 業 評 価	事業の評価について
そ の 他	武蔵村山市協働事業提案制度の改正案について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	（平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会） 事業実施団体が事業報告を行い、各委員から事業について質疑応答を行った。 （事業評価について） 報告のあった事業について、委員の意見交換等を行った。 （武蔵村山市協働事業提案制度の改正案について） 事務局で改正案を再度作成し、次回の会議で委員に諮る。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） ○印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：市担当課 □印：司会者	平成28年度武蔵村山市協働事業提案制度実施事業報告会 団体名：むさし村山ストリートダンス協会 事業名：ムラッパーの武蔵村山市PR作戦 市担当課：観光課 観光グループ -実施団体による報告- 質疑応答 ○ 様々なイベントに積極的に参加していることが伺える。団体からの申出だけでなく、主催者からの出演依頼が増加していることは、キャラクターの存在が市民に定着し、地域に根付いてきた成果であると思う。 ○ 武蔵村山市でキャラクターのイベントを開催したいと考えているようだが、他の地域ですでに実施しているイベントの真似事をするだけではあまり意味がない。どのようなイベントを考えているのか。 △ キャラクターを活用して地域おこしにつながるイベントを考えている。例えば、多摩都市モノレール沿線自治体のキャラクターを集めて、多摩モノレール延伸に関するイベントを開催したら面白いのではないかと考えている。ご当地キャラクター協会に相談しながら検討していきたい。

- 地域のキャラクターを集めるというアイデアは面白い。警察や消防のキャラクターにも参加を呼び掛けてはどうか。
- △ 検討したい。
- スタッフの強化についての考えを伺いたい。
- △ 着ぐるみに入れるスタッフを増やすことの必要性を感じている。これまでは謝礼を支払ってインストラクターに依頼していたが、今後は大学生や高校生などの若いスタッフを活用し、本協会の未来を担う人材の育成に力を入れたい。
- 当初の計画では、自立した活動のために商品販売による自己資金確保を計画していたはずだが、29年度と30年度の予算には含まれていない。
- △ 当初は商品販売による自己資金確保を考えていたが、まず認知度を高めないことには商品も売れないということに気付いた。商品販売も今後の検討事項であることは変わらないが、認知度の向上を当面の優先事項としながら、29年度はイベント出演料を資金の一部にしていきたいと考えている。
- 現時点では見通しが立っていないということか。
- △ 自己資金確保については今後の課題にしたい。
- ◎ 本制度では、3年間で団体の体制を整え、協働事業終了後も自立した活動を可能にするため、補助金額を徐々に下げることとしている。このことについて、実施団体としてどう感じているか。
- △ 補助金額が徐々に下がることを分かった上で計画し、提案している。活動を継続していくためには、自己財源の確保や人脈作りは当然取り組むべきことであると考えている。
- イベント出演料による収入が見込めるならば、29年度と30年度の予算書に入れるべきである。
- 担当課の自己評価書には、必ずしも観光課が協働相手として妥当とは言えないという記載がある。
- ▲ イベント出演や観光振興という点においては、観光課が妥当であったと考えている。一方で、市の広報という面では秘書広報課が所管であり、また本事業が非公認キャラクターを活用していることを考えると、企画政策課が所管するという考え方もある。本事業は観光振興、市の広報等を行っているものであり、観光課のみと協働することに違和感があるということである。
- 市はどのような役割を果たしたのか。
- ▲ 東京都や観光財団から、観光課にイベントの情報提供がある。それを団体に案内し、参加する場合は市を通して申し込むなどした。
- 現在は担当課が間に入り、イベント出演のマネジメントを担っているとのことだが、協働事業終了後は自分たちで行わなければならない。
- △ 団体の体制を強化し、自分たちで対応できるようにしなければいけないと思っている。年間計画を立てて活動していきたい。
- 協働事業終了後の関わり方について、担当課はどのように考えているか。
- ▲ 観光情報の提供等の支援を継続していきたいと考えている。
- ◎ 協働事業の実施を通して市がその意義や価値を認める場合は、市の事業として予算化するのも良い。今後の成果を見極め、協働事業終了後のことをよく検討していただきたい。

団体名：武士団・村山党の会
事業名：中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活
かした地域おこし第2弾
市担当課：観光課 観光グループ

-実施団体による報告-

質疑応答

- ◎ 担当課と団体で考え方に違いがみられる。
- △ 団体としては、まず活動を広く知ってもらうことからやっていきたいと考えている。
- ▲ 担当課としては、作成した甲冑を活用して市内外のイベントに積極的に参加していただきたいと考えている。
- 28年度は甲冑を何領作成したのか。
- △ 10領である。
- 3年間での作成見込みは。
- △ 手作り甲冑教室で作成するのが30領、個人で作成するのが10領、合計で40領程度を予定している。
- 作成した甲冑を団体の財産として、イベント出演等の活動をしていくつもりか。
- △ そのとおり。これまでは甲冑を作成するための消耗品費が大きな割合を占めていたので、今後は個人で作成する分は自己負担してもらいながら、手作り甲冑教室を開催しようと考えている。
- 29年度と30年度の予算書の、会費という項目は自己財源とする方が適切である。
- 29年度は小冊子や舞台脚本の作成に注力するとのことだが、舞台は市民向けに実施し、料金を取って実施するのか。
- △ まずは村山党を知ってもらうことが第一なので、イベントの中などで市民向けに実施することを考えているが、料金を取って資金にすることまでは考えていない。
- ◎ 他の地域を視察したとのことだが、視察からはどのようなヒントを得たか。
- △ 小田原市を視察したのだが、武者を旗印にして地域を盛り上げるという雰囲気が街全体に定着しているように感じた。
- ◎ 甲冑教室の運営については何かヒントを得たか。
- △ 女性や若者も多く参加しており、幅広い人材が地域おこしの担い手になっていることが感じられた。甲冑の材料費は参加者が自己負担しているようであったので、今後の参考にしたい。
- ◎ スタッフの強化についてはどのように考えているか。
- △ 舞台については、近隣の高校の演劇部に協力を依頼しようと考えている。
- ◎ 協力だけでなく、会員となって継続して活動に参加してくれる人を増やさなければいけないのではないか。
- △ 手作り甲冑教室は土曜日に開催しているためイベントと重なってしまうことがあり、一部のスタッフに負担がかかっている。まずは関心を持ってもらうことから始め、会員の増加につなげたい。
- 本事業は歴史に関するものであるので、小冊子等を作成する場合は、史実に基づいた時代考証が必要ではないか。
- △ 専門家の協力を得ながら、史実と創作を合わせたものを作りたいと考

えている。

△ その他には、村山党に縁のある近隣地域との連携ネットワークを構築したいと考えている。すでに出演依頼や甲冑の借用依頼をいただいております、地域の活性化を担う存在として活動していきたい。

○ 今後の展望の中で、グッズのプロデュースについて触れているが、どのようなアイデアを持っているのか。

△ まだ具体的なことは考えていない。今後の活動の中で検討していきたい。

団体名：特定非営利活動法人 こども科学教育振興協会

事業名：みんなの科学教室

市担当課：教育指導課 指導グループ

-実施団体による報告-

質疑応答

○ 参加者の反響が一部記載されているが、全体の集計結果はまとめていないのか。

△ アンケートは自由記述で行ったものであり、回答の分類等を行っていない。しかし参加者全員から好評をいただいている内容だった。

▲ 担当課としては、本事業の成果は2つあったと考えている。1つ目は、子どもの学力向上につながった点である。アンケートからは「もっと知りたい」「今度はこんなことをしてみたい」という声が多く挙がっており、学習への意欲・関心の向上を図ることができた。2つ目は、教員の資質向上につながった点である。これまでは教員自身に理科に対する苦手意識があり、教え方に苦慮することが多かったが、教員も本事業に参加したことで、子どもの興味を引き出しながら理科を教える手法や、楽しみながら理科に触れる手法を学ぶことができた。

○ 他の自治体の教育委員会からも連携を望む声はあるのか。

△ 複数の自治体から依頼をいただいている。

○ 武蔵村山市での協働事業は終了しても、他の自治体等で活動していく考えはあるということか。

△ 依頼があれば実施したいと考えている。

○ 子どもたちの理科離れを解消することも本事業の目的であったと思うが、事業を実施してきた中で、理科離れの分析や原因の究明についてはどのように考えるか。新たな気付きや課題等も見つかるはずである。

△ 28年度は、子どもたちに理科に触れる機会を提供することを主な活動としていたので、理科離れの分析や原因の究明については行っていない。

○ 市から依頼を受けたから実施したという印象を受けてしまう。なぜ武蔵村山市で実施するのか、団体から何を発信したいのかをもっと伝えていただきたかった。

□ 子どもたちの理科離れは全国的な傾向だが、武蔵村山市特有の傾向等はいかが感じられたか。

△ 理科に触れる機会がないだけで、きっかけさえ与えれば理科への関心や学力は劇的に伸びるのではないかということが感じられた。

	<p>事業評価について</p> <p>-非公開-</p> <p>武蔵村山市協働事業提案制度の改正案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提案団体の負担を考慮し、協働型事業の審査を行うのは新規提案時のみとし、2年目、3年目は審査と書類の一部を省略することとしたい。 ○ 初めに3年間分を審査するということは、途中で不採択になることは無いということか。 ● 報告会は毎年度実施する。その際に、あまりに不適切な内容であると認められる場合は、3年間の途中で不採択にする可能性もある。 ◎ 団体育成型事業の要件についても見直していただきたい。協働型事業への発展を前提とすると、それを負担に感じる団体もあるかもしれない。 ● 事務局で再度改正案を作成し、次回の会議でお示しする。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回会議は平成29年4月27日（木）午後7時から、ボランティア・市民活動センター会議室で開催する。
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	傍聴者： _____ 人
-------------	---	--------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： _____） <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： _____）
--------------	---

庶務担当課	協働推進部 協働推進課（内線： 242）
-------	----------------------

（日本工業規格A列4番）